

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

受験を覚悟し始めた頃から、関西方面の大学がいいと考えていて、その中でもオープンキャンパスで訪れた時にキャンパスのレンガつきの部分と先輩方の優しい雰囲気に憧れて同志社女子大学を受験しようと思いました。

(2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

[1学期]

高校3年生の1学期の時点では私は国公立大学の受験を考えていたのですが教科7科目を勉強していました。また英語だけは自分の進路がどう変化しても重要な鍵になることには分かっていたので、毎朝学校の開門と同時に自習室に入り、長文(1番簡単なもの)を1題と文法、単語を勉強していました。

[夏休み]

私は部活の練習がまだ週6日ほどあったので、友達が引退していく中、本当に焦りまじりながら自分のできる事をしよう!と思い、隙間時間は必ず単語の復習、部活が終わり次第すぐに塾で自習をする毎日でした。夏休みの時点ではもう同志社女子大学の推薦入試Sで受験することを決めていたので、英語を8割と国語、そしてもし落ちたときに備えて理科基礎楚を半分ずつ時間を割いていました。

[2学期～入試直前]

学校の友達も受験モードになり替わっていく中、私の受験は11月だったのが皆と同じペースではダメだ!と思い一層集中していました。国語科では現文の「自分なり」ではなくある程度「形式にとった」解き方をマスターして得点が出せるようにしていました。苦手だった英語はシステム英単語帳を使用し1つの英単語の全ての意味も1つ残らずに覚えられるように、毎日くり返していました。文法やイディオムはネクステーションを使用し、覚えられない所は付箋を貼ってひたすら単語を覚え、簡単な問題まで点を落とさないようにしていました。長文は1日1つ問題を決め、リスニングやシャドウイングもしていました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

高校3年生の学園祭では演劇を選択したのでとても忙しかっただけだが、最後の行事デー!!と振り向きながら泣きまじりながら夜は塾に通っていました。

クラブ活動はとてもしっかりと、テスト週間にも2時間練習という鬼のようなクラクでしたが、眼筋を感じたまま中途半端に勉強せよ、勇気をもって仮眠をとってスッキリした状態で短期集中型で詰めこむようにしていました。

健康面では11時には就寝、6時起床をくり返し7時間は確保していました。

スマートフォンはSNS関係は全て消していました。気分転換にTVは見っていました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験期間は本当に辛くて何度も妥協しなくてはならないけれど、終わってから感じる「充実感」と「達成感」は一生のうちにも一度しか味わえないものだし、受験を通して出会った友達、先生方に感謝しつつ、自分だけの受験にしていってほしいです!! 最後は決めるのは自分で!!